

1 実施日 令和8年2月13日(金) 14:00~16:30

2 出席者

(1) 協議会委員(五十音順)

柏原 泰和(川西地区青少年健全育成協議会会長)  
川端 康寛(三島高等学校同窓会会长)  
林 武文(関西大学教授)  
平田 ミカ(三島高等学校PTA会長)  
堀田 好江(高槻市立第二中学校校長)  
松葉 祐治(高槻市立郡家小学校校長)

(2) 校長 山下 克弘

(3) 事務局

高原 浩徳 教頭 廣澤洋二 首席 一馬 愛 首席、総務部長 香西 朝夫 事務長

3 議題

(0) 6限授業見学

音楽会(1年生全体合唱・2年全体合唱)動画を鑑賞

(1) 学校教育自己診断について

(2) 令和7年度学校経営計画及び評価・令和8年度学校経営計画について

4 委員会からの指摘提言

(0) 授業見学及び動画鑑賞について

- ・服装が自由で、部活動の服装で授業を受けている生徒が多いという印象を受けた。
- ・音楽会の様子を見たが、あの合唱は一人、二人ではできないので、大勢の生徒たちでこうやって一つの音楽を作れるのは感動的だと思った。

(1) 学校教育自己診断について

- ・学校に満足しているという生徒の回答が多いので、うまく学校運営をされているんじゃないかなと思う。
- ・広報活動は時間がかかるが、インスタなど含めて、今後方法を検討されるといいと思う。
- ・研修組織が確立し、計画的に研修が実施されているというところが倍以上肯定的な評価を受けたということで、忙しいところ時間を取ってみんなを集めるというのは大変だろうが、2年、3年と続くと、先生方の中で、コミュニケーションが取れるようになると思うので、続けてもらえたと思う。

- ・先生と生徒、保護者と生徒など、データとデータの開きがあるところは、なぜかを問いかけて改めて考えてもらいたい。
- ・個人端末の活用度が高い。学習でしっかりと位置づけられているのではないか。
- ・個人端末の活用が進んでいると感じる。文化祭の台本を、友人間で共有しながら同時に書いていた。小中高と進むにつれて、使いこなせるようになっていると思う。
- ・生徒一人1台端末を連絡ツールとして活用するというところが、あまりまだできていないように感じたので、今後検討していってほしい。
- ・H Pについては保護者も見れるような工夫があればと思う。
- ・小学校は図書館の利用率が高い。ゆとりスペースで畳もあるくつろぎのスペースになっており、多くの児童が利用している。活字離れもあるが、図書館の活用を検討してほしい。
- ・図書館の利活用について、小中学生がイメージする図書館の活用の仕方と高校生とは違う。図書館をよく活用するかと聞かれたら、だんだん発達段階が上がってくると、図書館は勉強しに行くところ、調べ物をしに行くところ、つまり自習室として利用している。生徒たちが、どれくらい図書館に行って、どの本に興味を示して、ということをどうやって測るのかというのは課題であり、実際は利用率が低いのではなくて、図書館は活用できるんじゃないかというふうに思う。
- ・家庭学習への満足度が低いが、学習面で生徒たちは何を求めているのか。アンケート内容にも工夫が必要だろう。

## (2) 学校経営計画について

- ・家庭学習については、時間的満足度における評価であれば、どんな風に時間を使うかというところは難しいと思うが、全体が低いというのを、実際どこに対して満足していないのかということで、塾へ行っているという観点なども含めた時に、どこに着目してアプローチするのかみたいなところで、家庭学習について問う部分は検討してもらいたい。
- ・生徒の家庭学習の満足度をあげるにはどうすればいいのか。家庭学習の動機付けを考えて、生徒が自分でやりたくなるような工夫が必要ではないか。
- ・クラブ活動で生徒がもっとうまくなりたいと思い自主練習をするように、授業で学んだことも、もっと知りたい、もっと調べたいと思えば、点数に結びつけることは関係なく、自ら学ぶようになるのではないか。量ではなく質での満足が必要なのかもしれない。
- ・家庭学習については、単に分量ではなく、学びの追求、もっと学びに結びつけられるような授業での工夫があれば良い。みんなで受験を乗り越えよう、などという雰囲気づくりもいるだろう。
- ・部活動を通じて、先生と生徒とのコミュニケーションを図るっていうのが大事で、評価と関係なく、情報交換の場があったらいいと思う。外部委託などにより、一律に減らすように言われてもなかなかそうはいかない。先生方のやる気を削がないように働きかけをしてほしい。
- ・子どもに何かを教えることが好きで教員になっているところもあるので、自分の得意なスポーツを子どもに教えたいという情熱を持っていらっしゃるという方もいると思う。
- ・残業減らすと、逆に持ち帰り仕事が増えないだろうか。解決策はなかなかないが。
- ・高校生は大人な部分がたくさんあるので、任せることもたくさんあると思うが、やはりまだ子どものところもあるので、そういう安全も含めて見守りながらというところの、先生方の教育的な愛情のようなものがすごく感じられて良かった。一方で、先生たちにも元気でいてほしいので、時間外残業の

時間がただ単に伸びるというのは良くないが、そのバランスというところも考えて頂けたらと思う。

・働き方改革と言いながら、働き甲斐が無くなってしまったらダメだということで、行事をどんどん減らしていって、子どもたちがずっと勉強してるのもしんどいことだと思うので、多様な遊ぶ時間を、子どもたちが共に過ごせる時間もほしい。そのバランスをどう考えていくかっていうのが課題であり、土日の活動が楽しいと思っている先生方にそれを取り上げようというのはおかしいので、活動をやめて時間を減らすというではなく、そのバランスを見ながらやっていかなければならない。

※令和8年度学校経営計画は全員一致で承認された。